

調査報告 野外彫刻の現状調査

Survey report on the current state of outdoor sculptures

市川 治郎
ICHIKAWA Jiro

キーワード：自己制作の野外彫刻、経年変化、長期間展示について

Keywords：Outdoor sculpture of self-made, secular change, long-term exhibition

The main causes of damages of sculptures placed outdoors include the deterioration caused by pollutants such as acid rain or automobile emissions, the wind and water damage caused by the change of temperature in the snowy regions, recent abnormal weather conditions, and the falling of thunderbolts. They were also damaged by the repeated major earthquakes. The sculptures placed in public space should coexist with their environment and be resilient to the environmental changes around them. Moreover, they should avoid doing any harm due to the damage because they are placed where many people pass by. I surveyed the present conditions of my own works from this viewpoint.

1. はじめに

かつて全国的に野外彫刻展が盛んであった30年程前、私も公募に応募して数点のブロンズ彫刻を設置した。

遠隔地に設置した自作を再び見る機会も少なく、今回の調査のために数十年ぶりに訪れた場所もある。

野外に置かれた彫刻の損傷については、酸性雨や排気ガスなどの汚染物質による劣化は元より、降雪地域での温度変化や近年の異常気象による風水害、落雷による被害なども原因となる。また度重なる大地震による被害も受けた。

パブリック・スペースに設置した彫刻は、環境と共に存在することが大前提であり、周囲の環境変化を柔軟に受け止める必要がある。また、多くの人々の行き交う場所にあるからには、何よりも破損などによる危険性を回避することが不可欠である。

この調査報告では、2点の彫刻作品の現状を確認し、その経年変化について記録すると共に、彫刻作品の長期間展示の在り方について述べたい。

2. 調査した野外彫刻作品について

今回は以下の2点について調査した。

(1) 作品名：倭人伝
設置年：1989年11月
設置場所：埼玉県鴻巣市
サイズ：210cm×90cm×190cm
素材：ブロンズ

(2) 作品名：馬と少年たち
設置年：1996年10月
設置場所：岩手県盛岡市
サイズ：250cm×250cm×280cm
素材：ブロンズ

3. 作品(1)の現状

以下は、作品(1)の横に設置された銘板の写真である。当時の制作意図が表記されているが、金属板が腐食して読みづらい。

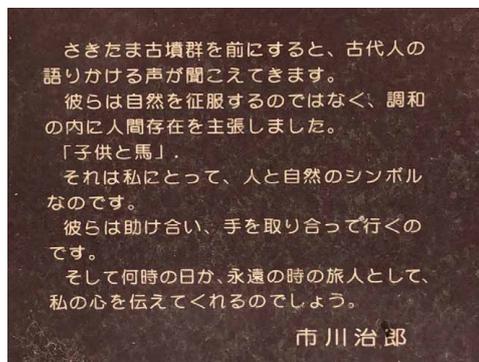


図1 金属製の銘板。



図2 作品(1)を左斜め前方から見たところ。台座は無く、地面には鉄筋コンクリートの基礎を造り、本体足部に止めたステンレス製ボルト4本をモルタルで固めてある。

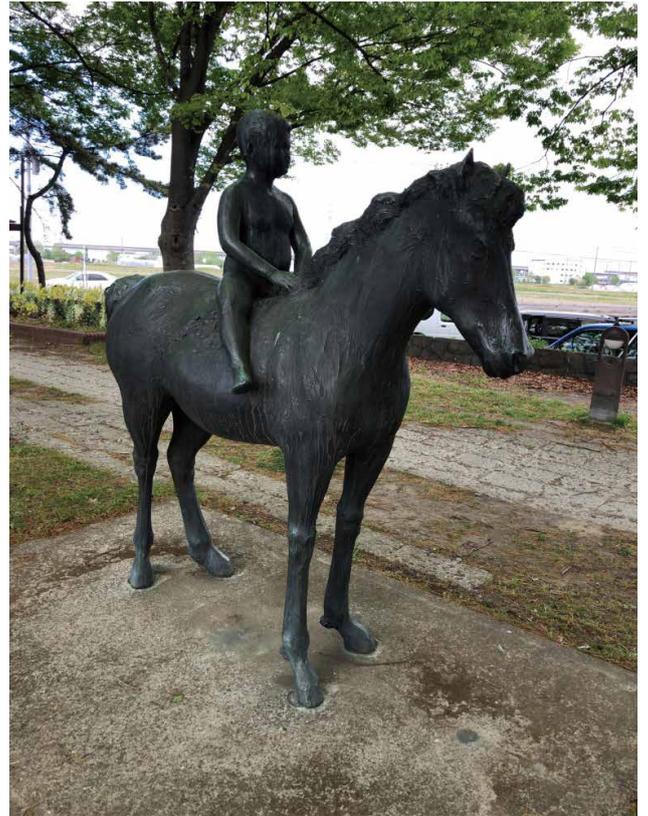


図4 右斜め前方から見たところ。基礎部分のコンクリートの劣化を想定していたが、比較的良好な状況を保っている。

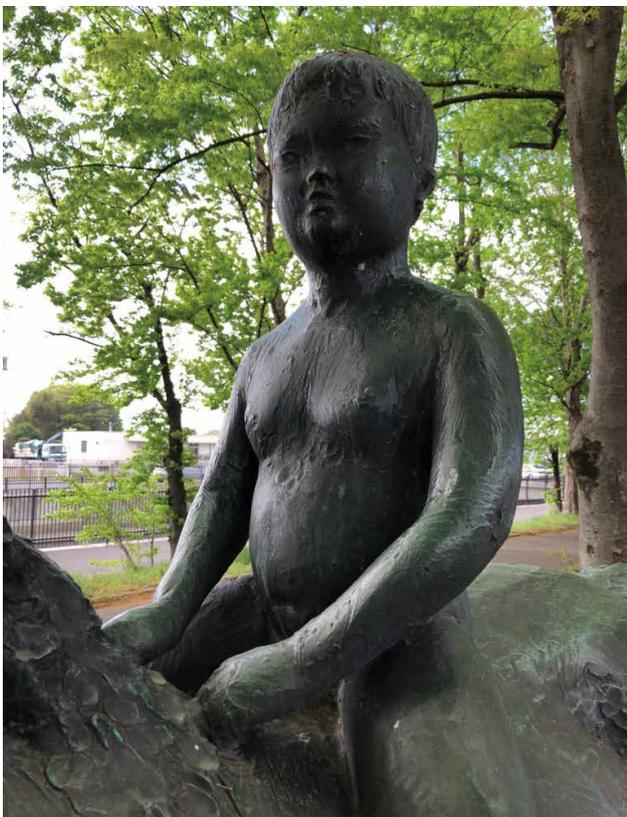


図3 子供のアップ。緑青錆の発生は少ない。

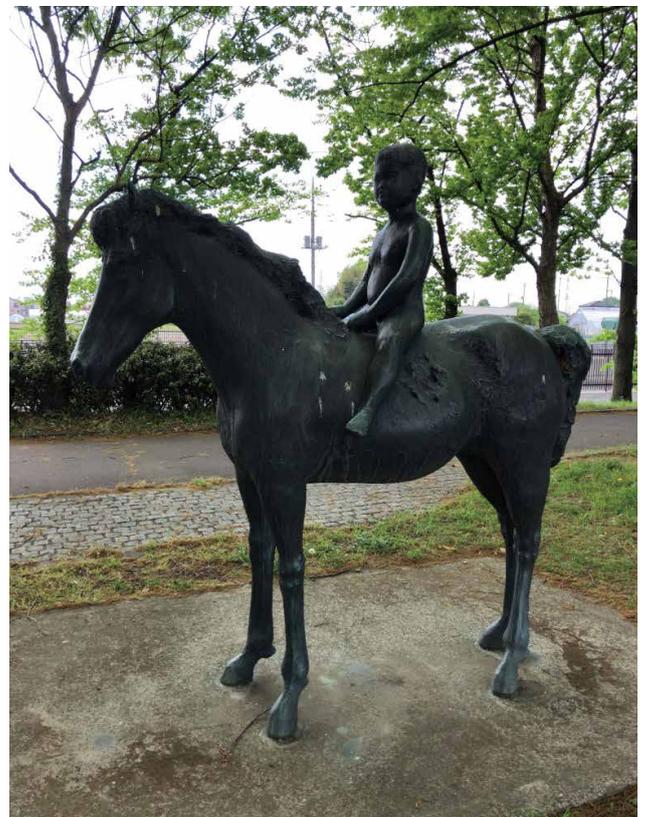


図5 左方向から見たところ。自然豊かな環境では、鳥糞による汚れは致し方ない。



図6 完成時にブロンズ表面は硫化処理を施して黒色に腐食させたが、思ったより完成時の雰囲気は変化していない。通常、野外に置かれて雨ざらしになったブロンズは緑青による腐食で緑色になる場合が多い。制作時は上に子供たちが登ることも想定したが、幸いなことにその痕跡は見られない。

4. 作品(2)の現状

1996年4月に移転新設された盛岡競馬場の敷地内に設置されている。設置場所は競馬場内のオープンスペースにあり、家族連れの観客が休憩することを目的とした空間である。1996年10月の設置当時、周囲の芝生は無く樹木も小さかったが、30年の歳月が想定通りの周辺環境を作った。私としては申し分のない状況で管理されていると感じた。



図8 作品(2)を右斜め前から広角レンズで撮影。台座面と芝生の厚みのバランスが良好である。



図7 足元に設置された御影石による表示。表面は一定の風化が進んでいる。



図9 左斜め前から見たところ。

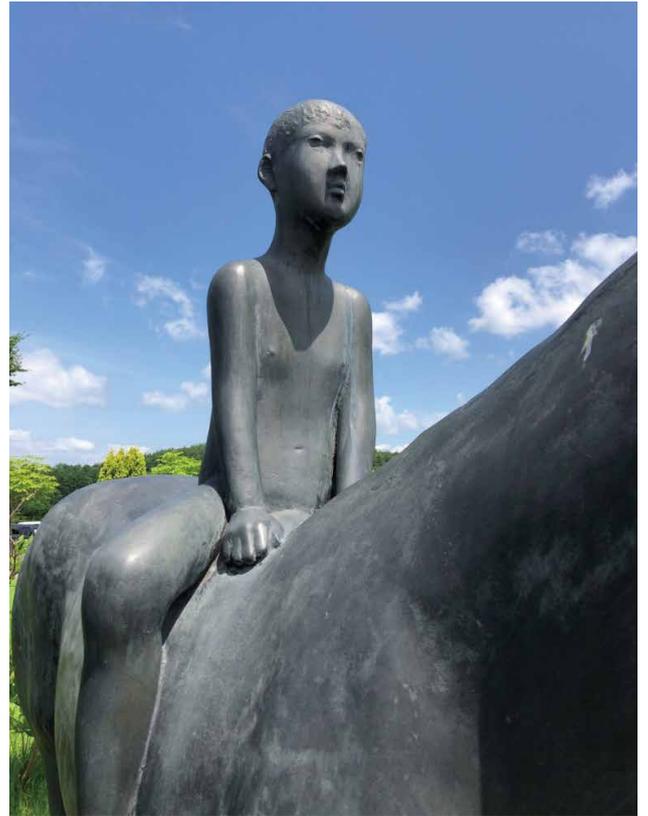


図11 少年のアップ。よく見ると緑青錆の発生はあるが、全体としては黒色の硫化皮膜がよく残っている。風雨や降雪に晒されている割には、ブロンズ表面の変化は少ない。



図10 ブロンズ像完成時には、表面を硫化処理して黒色にしたが、その雰囲気はあまり変化していない。緑青錆の発生は少ないように感じた。周辺の自然環境が豊かであることと関係があるかどうかは不明である。



図12 この設置場所では衆目があるため、子供たちが上に登って遊ぶことは難しいであろう。そのため、転落などによる怪我の危険性は少ないと考えられる。



図 13 台座は黒色御影石板をコンクリート基礎に貼り付けている。後方の御影石上に大きく斜めのひび割れが入っているが、これは東日本大震災の爪痕である。この付近も震度6強の揺れに見舞われ被害は大きかったが、彫刻本体は倒壊することもなくこれに耐えた。



図 15 彫刻作品の遠望。



図 14 少年のアップ。この写真でも緑青錆の発生状況がわかる。少しずつ錆は進行しているようであるが、強力な硫化皮膜の効果で黒色が維持されている。耐候性という観点からは十分な結果が見られる。

今回の調査に当たっては、管理事務所から様々な質問や情報を得た。この敷地内には同時期に設置された野外彫刻が数点あるが、中には鋼板の塗色が剥がれて赤錆を生じたものや石像の表面劣化が進んだものもあると言う。その処置に当たって、どのような対応が必要であるかという質問を受けた。また対応処置をする際には作家の許可が必要かどうかというような相談もあった。

私は彫刻素材全ての専門家ではないが、パブリック・スペースに置かれる野外彫刻の一般的なメンテナンスとして、表面の清掃や防錆処理による劣化防止、ワックスがけや塗料の再塗装による美観維持、ひび割れや破損箇所の修理修繕、などが必要であると回答した。さらに東日本大震災のように大きな揺れを経た後であることから、彫刻本体の疲労破壊の可能性や強度確認、台座や結合部分の補強など、安全性に関わる耐震強度の点検は最重要課題であることを述べた。一方、対応処置をする際の作者からの許可に関しては、それぞれの彫刻作品には著作物として作者に著作権が生じているが、所有権は完成時に引き渡されており、この敷地内での安全な環境を維持するために必要な補修補強などの責任と権限は現所有者にあることを説明した。ただし作者に連絡してその補修方法などについて尋ねることが、安全管理に直結するであろうことも補足した。



図 16 足元に設置された御影石による表示。冬期は雪に埋れているはずであるが、比較的石材の劣化は進んでいない。

5. まとめ

一時期ブームとなった地方自治体などによる野外彫刻展も落ち着き、最近では経済状況に左右されてあまり多くは見られなくなった。パブリック・スペースに彫刻作品を設置することは、半永久的に自らの表現を継続展示できる喜びがある反面、その経年変化に向き合い、時には劣化や損傷の悲しみに直面することにもなる。特に、以前はあまり重大視されていなかった地震などの自然災害に対しても、一般観客への安全確保の観点から十分な配慮が求められている。期間の定められた展覧会などでの展示と異なり、極めて長期間の展示に耐えうる素材や手法が求められていることにも留意しなければならない。あらゆる創作物に永久不変などということはあるが、存在する限りは必要なケアやリペアを重ねてその機能を維持したいものである。

今回の調査では、過去に制作して野外設置した2点に限って報告したが、今後さらに別の彫刻作品についても、今回の調査結果を踏まえて調査確認して行きたい。

(撮影機材)

- (1) Leica Standard, Elmar 5.0cm f3.5
- (2) SONY DSC-TX300V
- (3) Apple iPhone 8

6. 参考文献

- (1) M・A・ロビネット：屋外彫刻—オブジェと環境、p.203、鹿島出版会、1985.
- (2) 佐藤義夫：野外彫刻マニュアル—まちにアートを、p.138、ぎょうせい、1994.